



市報

1999 8/1 NO.1249

AUGUST

Communication Paper Yamaguchi

CONTENTS  
主な内容

「市民のバス」具体化に向けて  
市制70周年記念文化事業決まる  
(仮称)文化交流プラザ  
アンケートから







# 「市民のバス」具体化に向けて

— 山口市交通まちづくり調査研究委員会発足 —



公共の交通のあり方を調査研究し、今後の調査研究をすすめていく。市は、市営バス廃止後の交通のあり方などについて調査研究委員会を設置し、7月13日初会を開きました。委員会は、交通の専門家など10名で構成。来年3月をめどに、まちづくりの視点から本市におけるこれからの交通について検討を行います。



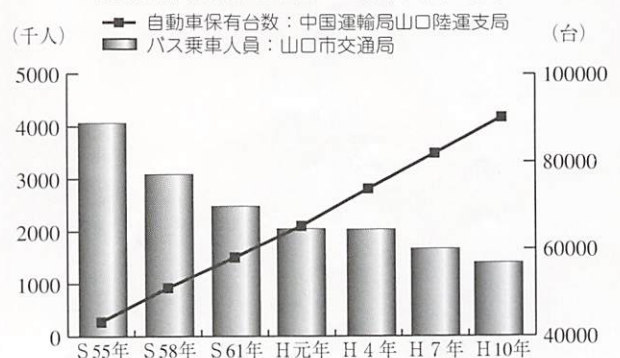
## 利便性向上・環境問題などが課題

今年3月31日をもって、56年間の歴史を持つ市営バスが幕を下ろし、防長交通(株)に事業が引き継がれました。このことで、当面は、現在の路線・便数が確保されましたが、今後、より便利で快適な市民の足を確保するためには、いくつかの検討課題があります。

引き継がれた現在の路線は、市営バスの経営難から、縮小に縮小を重ねてきたもので、けつして便利のよいものとはいえませんし、路線の地域格差も生じています。また、いわゆる赤字路線も含まれていることから、今後利用が増えない限り、さらに路線の縮小・廃止も考えられます。

市内の公共交通の利用者をどう増やしていくのか、また、より利便性の高い公共交通の整備をいかにすすめていくのが緊急の課題

自動車保有台数と市営バス乗車人員の推移



となっております。

一方、国は平成13年度に乗り合いバス事業の需給調整規制の廃止を予定しています。これにより、バス事業者は赤字路線から容易に撤退できるようなることから、撤退した路線地域の市民の足をどうするかが、今後、自治体の大きな課題となつてきます。

さらに、自動車の排出する二酸化炭素など地球温暖化ガスを抑制する上からも、近年、公共交通の役割が見直されており、公共交通を軸とする新しい地域交通のしくみづくりが課題となっております。



## まちづくりの視点から 地域交通を検討

これらの問題を考えていく上では、公共交通だけでなく、徒歩、自転車、マイカーなど、地域交通のしくみをどうするかという基本的な方針が必要となります。

そして、この方針を検討する上で、「便利で暮らしやすいまちにするためにはどのような交通機能が必要なのか」「どのような交通体系を作ることが、活力のあるまちにな

るのか」といった、交通とまちづくりを一体的に考える「交通まちづくり」の視点が必要となります。

今回の調査研究委員会では、この視点に立って、これからの山口市のまちづくりや市民生活において、人が移動するための交通システムや施策はどうあるべきか、その方策、方法について専門的な調査研究を行うものです。その上で、市内の公共交通のあり方、とりわけ「市民のバス」の具体化に向けて取り組もうとするものです。

### 「市民のバス」

平成10年3月に提出された、山口市自動車運送事業経営審議会（会長 藤井大司郎山口大学経済学部教授）の答申の中で示された、ミニマム・ニーズを充足する手段としての公共交通の考え方。「市民と行政が協力しながら、その維持に主体的に関与できる」バスに代表される公共交通機関のこと。

\*ミニマム・ニーズ：最小限度の要望・要求

調査研究委員会のメンバー（順不同・敬称略）	
氏名	
◎岡 並木	評論家：比較都市論
○福留久大	九州大学経済学部教授
安野早己	山口県立大学国際文化学部教授
吉田昭二	中国運輸局地域交通企画課長
山中直之	山口県商工労働部次長・交通運輸対策室長
安田泰三	山口県警察本部交通規制課長
貝 浩二	山口警察署長
木森秀治	社団法人山口県バス協会専務理事
柳屋 誠	社団法人山口県乗用自動車協会専務理事
原 昌克	山口市助役
◎は委員長、○は副委員長	



7月13日の会議終了後、委員は、山口駅、県庁前バス停、矢原駅など市内の状況を調査しました

## 成否は市民の本音がいかにつかめるか

きめのこまかい、市民にとって利用しやすい公共交通を整備するためには、市民一人ひとりの、地域の、各施設のニーズをつかむことが大切です。調査研究委員会の岡委員長はあいさつの中で「いかに市民の本音をつかむか」が決め手になると抱負を語られています。

委員会では、今年度中に市民グループインタビュー調査を行うとともに、商店街、病院、公共施設、交通事業者、観光事業者などのヒアリング調査を行い、公共交通に対するミニマム・ニーズ、公共交通の必要性と役割・期待効果、バス交通とJR山口線の現状・問題点と動向、「市民のバス」の実験運行などの検討を行い、来年3月頃に報告書をまとめる予定です。





## 市制70周年記念文化事業最優秀に2団体

### 「紙芝居 白狐の湯」と「ハートふる山口」

#### 7つの事業が奨励事業に

市が、市制70周年を記念して募集していた記念文化事業に市内から18事業の応募があり、6月26日、中市コミュニティホール（Nac）で公開審査が行なわれました。審査の結果、最優秀2団体と奨励賞7団体が選ばれました。最優秀に輝いた2つの事業をご紹介します。



手づくり絵本の会の皆さん

### 山口の民話を紙芝居に 手作り絵本の会

山口市の民話「白狐の湯」の手づくり紙芝居を作り、市内各地の幼稚園や図書館、子育てサークル、

小学校での実演を計画しています。その他の所でも、要請があれば喜んでお伺いします。またより多くの子どもたちに見てもらえるように、市内の小学校や幼稚園、県内の図書館に配布する予定です。

21世紀の山口市を担う子どもたちが、ふるさとの歴史に対する認識を深め、郷土愛が芽生えればと思います。

10月までに完成させ、ぜひハートふる山口にも出演させていただきます。お問い合わせは、山口智子さん（☎28-6377）

市制70周年記念文化事業は、大内時代や明治維新など山口の歴史的文化的資源を活用した事業を、市民が企画、実施するというもので、採用された事業には事業費の全額を予算の範囲内で助成しようとするものです。

6月26日、一般市民も参加しての公開審査では、5時間にもおよぶ審議がされ、最優秀に2事業が、奨励賞に7事業が選ばれました。

最優秀の2団体は、一緒に企画・実施する方を募集しています。興味のある方は、どうぞご連絡ください。

### 商店街でハートふるウエディング

#### 山口市商店街連合会

「ハートふる山口」と題し、結婚式や仮装パレード等のイベントを10月3日に開催します。

ハートふるウエディングは、山口市の姉妹都市バンブローナ市のあるスペインの結婚式をもとにしたものです。挙式を商店街の「魔法の屋根」の下で行い、商店街をパレードします。ここで結婚式をしたいというカップルを募集しています。



山口市商店街連合会の皆さん

今までにないような、誰もが共感しやすいものにしたいですね。新たな交流人口の創造とともに、中心市街地を活性化したいと考えています。

お問い合わせ 山口市商店街連合会（山口商工会議所内 ☎25-12300）

## 奨 励 賞

- ☆山口の歴史を伝える紙芝居づくり
- ☆クリスマスケーキづくりコンテストを通したまちおこし
- ☆パネルディスカッション「大内文化を彩った武将達 義隆、元就、晴賢」
- ☆中学生以下の子どもを対象に「じぶんの雪舟庭」を創造する
- ☆近代建築遺産を通したまちづくり
- ☆西の京やまぐちテーマパーク構想
- ☆クリスマス発祥の地山口をアピール



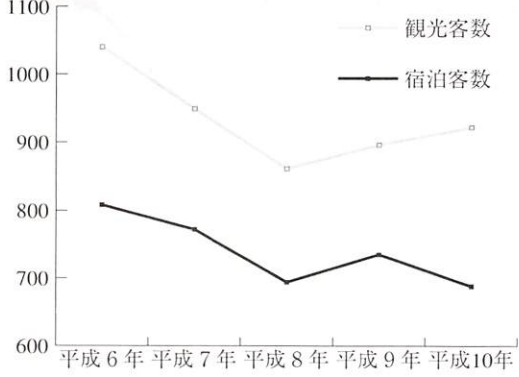
# 活気ある湯田温泉を目指して 湯田温泉地区整備調査事業はじまる

近年の厳しい経済情勢を反映して、湯田温泉を訪れる観光客が、最近では平成6年の約104万人をピークに減少しています。平成9年、10年は日帰客の増加により観光客数が増加したものの、宿泊客数は平成元年以降で最も少ない約69万人になっています。(左図)

湯田温泉地区は宿泊の拠点であり、2001年に阿知須干拓で開催される「山口さらら博」の宿泊基地として期待されています。

こうしたことから、市は湯田温泉地区の活性化を目的に地元関係

湯田温泉宿泊・日帰別観光客数の推移(単位:千人)



団体の代表による「21世紀の湯田温泉を考える会」や市民参加のワークショップ方式による「湯田温泉21世紀フォーラム」を設立しました。それぞれの会では、湯田温泉地区の実情や諸課題を把握し、その対策を総合的に検討します。



湯田温泉について意見を述べるフォーラム参加者

さらに、地区住民が「住んでいてよかった」と感じるようなまちづくりのための方策についても、調査・研究をします。

今後は、フォーラムの提案と考える会の提案が取りまとめられ、平成11年10月に中間報告、平成11年度中に最終報告が市に提出され、「第五次山口市総合計画」に盛り込む予定です。

## 70周年 シリーズ

な行ら介  
近施か紹  
身制設を  
も市創み  
最は業ゆ  
活に回事あ  
生。水で  
常道のます  
日水の現在  
上水時在ま  
当水現し

市制施行の頃、市街地では不良な井戸水が多く、市民の間に消化器系の伝染病が多発していました。そこで、天花畑に貯水池を築造し、木町西方に浄水場を設置する水道計画を立てましたが、実現困難な状況にありました。こうした中、水源を市外御堀に求め、絶好の地下水源を現在の水道局の場所で見つかりました。昭和9年7月、上水道工事に着手。昭和10年12月、伝染病予防や防火対策など、市民の期待を担い給水が開始されました。

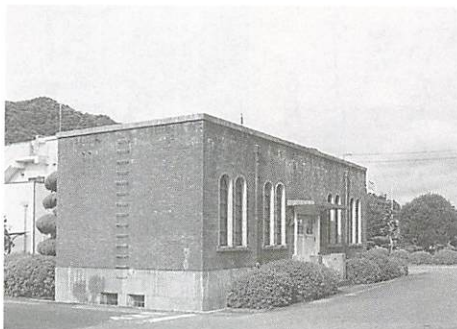
市街地を中心とする北部地区では、7次に及ぶ拡張を行い、吉敷・平川・大内に水源を求め施設整備を実施。平成5年には仁保地区に給水を開始。現在、市水道局が4万3000余世帯に給水を行っています。

市南東部に位置する川東地区では、秋穂町と共同で、昭和36年9月水道工事に着手。山口市・秋穂

町共同簡易水道組合を設立し昭和38年小郡町から分水を受け給水を開始。現在、山口市・秋穂町水道企業団が、2800余世帯に給水を行っています。

市南西部にある川西地区では、山口市川西簡易水道として認可され、昭和41年10月に小郡町から分水を受け給水を開始。その後、水需要の増加に伴い施設能力は限界に達し、昭和56年4月より山口市川西水道と変更認可され、施設整備を行い平成4年3月に山口市水道事業に統合。現在、3100余世帯に市水道局が給水を行っています。

現在、市では、昭和54年に設立された山口・小郡地域広域水道企業団の行う上水道用水供給事業と合わせて、安全でおいしい水の安定供給を行っています。



水道事業創設時のポンプ室  
(宮島町 山口市水道局敷地内)

(仮称) 文化交流プラザ アンケートから

# 若者を中心に高い期待感 一方で疑問の声も

「情報」「文化」をキーワードに、「交流」を通じてまちを活性化させよう  
と中園町一帯に計画されているやまぐち情報文化都市づくり。

その中核施設となる(仮称)文化交流プラザについて、皆さんにもっとよく  
知っていただくとともに、様々な意見を寄せていただくため、6月3日～  
27日の間米屋町で、公開広聴「ちいさなプラザ」を開催しました。

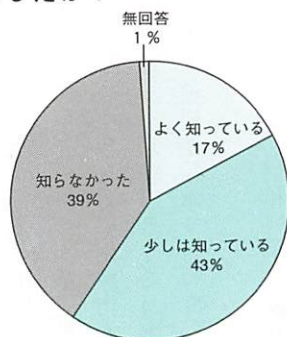
ここでは、そのアンケートの結果、皆さんから寄せられた意見をご紹介します  
とともに、ご質問等にお答えします。

## アンケート質問項目

- ①文化交流プラザの計画を知っていましたか？
- ②展示を見て、文化交流プラザをどのように感じましたか？
- ③どんな公園が欲しいですか？
- ④どんな図書館が欲しいですか？
- ⑤文化交流プラザが整備される中園町はどんな場所になったら良いと思いますか？
- ⑥どんなことに興味がありますか？
- ⑦その他意見がありましたらどうぞ

まず、①「文化交流プラザの計画を知っていましたか？」という質問に対しては、「少しは知っている」と答えた人が43パーセント、次いで「知らなかった」と答えた人が39パーセント、「よく知っている

文化交流プラザの計画を知っていましたか？



プラザについて知っていた人は、全体の6割という結果になっています。

このうち、10代・20代の半数以上が「知らなかった」と回答しているのに対して、30代以上では、8割近くが「よく知っている」「少しは知っている」と回答しており、

今回の公開広聴「ちいさなプラザ」(6月3日～27日)の来場者数は2926人で、そのうちアンケートに回答された人は315人、回答率は10・8パーセントでした。アンケートは調査票を会場に置いておき、任意に記入していただく方法としました。(公演等があったときには、パンフレットと一緒に配布)

「と答えた人が17パーセントと、

## 半数以上は「面白そう」

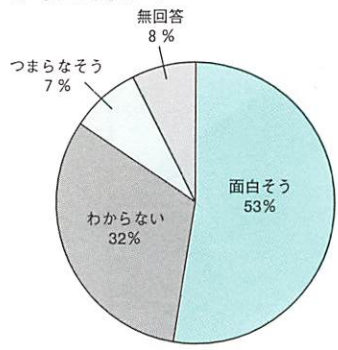
### 慎重な対応を望む声も



計画に対する30代以上の関心の高さがうかがえます。

次に②「展示を見て、文化交流プラザをどのように感じましたか？」という質問に対しては、「面白そう」と答えた人が53パーセント、「わからない」が32パーセント、「つまらない」が7パーセントとなっており、過半数の人が面白そ

文化交流プラザをどのように感じましたか？



うだと感じていることがわかります。10代・20代の若い世代で「面白そう」の回答率が高く、一方で、どの世代も「わからない」の回答が3割程度あり、50代以上でその傾向が強くなっています。

この質問で「わからない」「つまらないそう」を選んだ方に、「ではどうしたらいいと思いますか?」と訪ねたところ、様々な意見が寄せられました。

全体の傾向として「ソフト面での方向性、具体的内容を明らかにして欲しい」「具体的に一市民が行って何ができるかももう少し踏み込んで示して欲しい」といった情報をわかりやすく公開することを求める意見、市民が気軽に利用できるように求める意見が多くありました。反対する意見では、「市の借金返済が心配」「もっと経済効果のあるものを」といった財政の問題に対する懸念や、経済効果を求める意見、計画の中止を求める意見も見られました。

③「どんな公園が欲しいですか?」という質問に対しては、どの年代も共通して「緑の多い、きれいな、くつろげる公園」「誰もが気軽に利用できる生活圏内の公園」を求める意見が多く、次いで「マーケットや催し物の多いにぎわいのある楽しい公園」「スポーツ・遊びなどのできるアクティブな公園」等があげられています。またその一方で、「公園はこれ以上不要、他の施設が欲しい」といった意見も見られました。

④「どんな図書館が欲しいですか?」という質問に対しては、「本の種類や雑誌の多さ」「快適さ、明

るさ、気軽さ」を求める意見が多く、次いで「インターネットなどのパソコン情報やビデオ情報などの電子図書館的な要素」「絵本の読みかせができるなど、子どもと利用しやすさ」などがありました。また、「県立図書館があるので不要」という意見が30代後半から徐々に増える傾向にありました。

⑤「中園町はどんな場所になったら良いと思いますか?」という質問には、「気軽な場」を求める意見が多く、次いで「ゆつくりした場、心地よさ、くつろげる場」「市の中心性、拠点性、シンボル性」を求める意見が多く、その一方で「他の施設の建設」「計画の見直し」を求める意見も見られました。



プラザについて理解を深めていただくために開催した「ちいさなプラザ」

どんなことに興味がありますか？

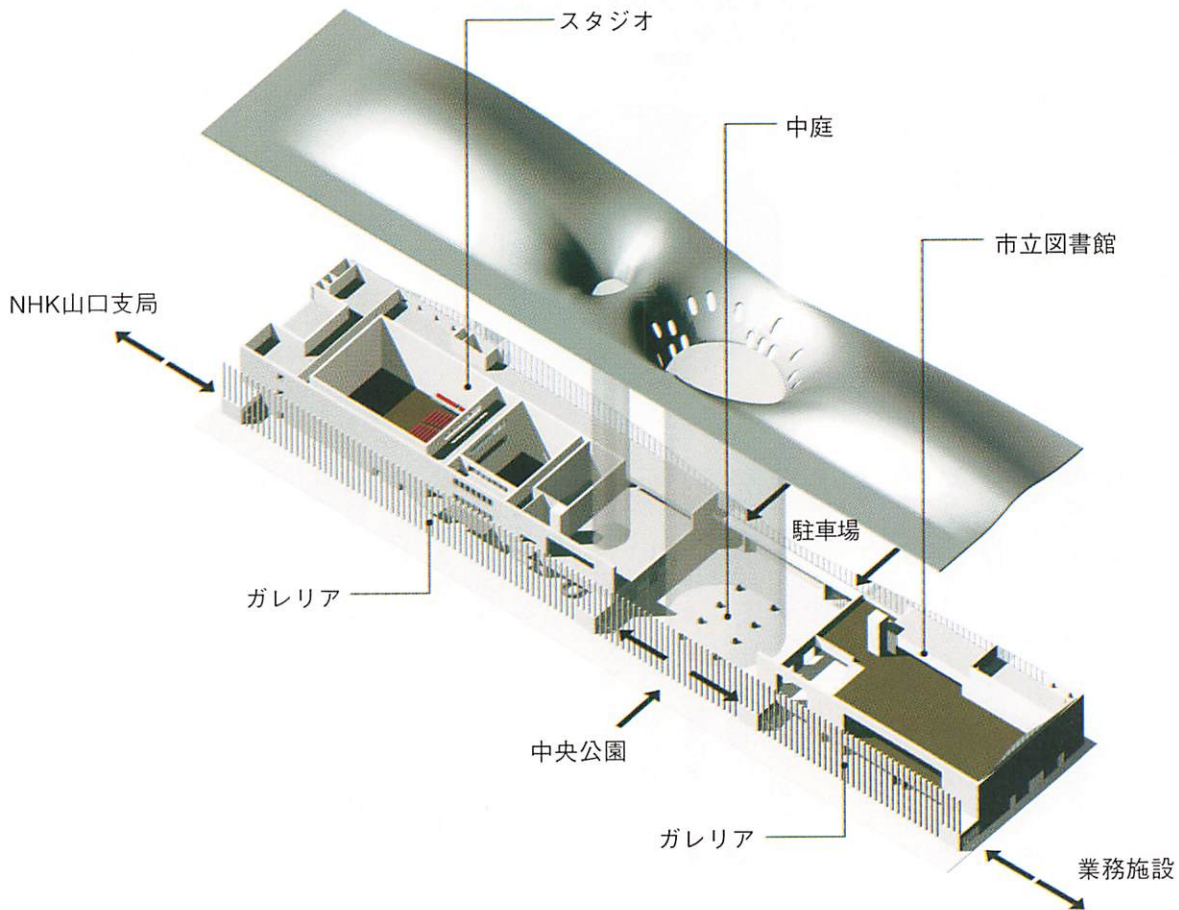
(複数回答)

分野	件数	回答率割合
音楽	151	50%
演劇	139	46%
絵画	102	34%
写真	96	32%
ダンス	78	26%
パフォーマンス	59	19%
デザイン	57	19%
アニメーション	48	16%
建築	43	14%
CG	41	13%
ドキュメンタリー映画	41	13%
ビデオアート	28	9%
メディアアート	26	9%

質問⑥では、さまざまな芸術分野等について「どんなことに興味がありますか?」と質問しました。その結果、音楽、演劇に対する関心が特に高く、続いて絵画、写真、パフォーマンス等に興味がある方が多いという結果が得られました。ビデオアート、メディアアートの新しい芸術分野については約10パーセントの方が興味があると答えられており、徐々に認識が高まりつつあるようです。

質問⑦「その他の意見」では、みなさんから賛否両論様々な意見が寄せられました。そこで次に、その中からプラザに期待する声をいくつか紹介するとともに、反対や疑問の声にお答えします。

(仮称) 文化交流プラザ機能構成図



# プラザに期待します

## みなさんの意見から

- ▼いろいろな方々に温かくむかえられるところになると、いいなと思います。少し、どんよりしがちな山口盆地に、新鮮な空気が入ればうれしいですね。(26歳・女性)
- ▼シンポジウムには、行けませんでしたが、みなさん一人ひとりがとてもいい意見を出していたのですね。特に学生、若い人たちの前向きな意見はとても貴重だと思えます。このようなしつかりとした意見を持った人たちがいれば、きっとプラザはいいものができるはずだと信じています。(32歳・女性)
- ▼「山口市には文化交流プラザがありません」と、いえるようになるよう応援します。(34歳・男性)
- ▼子ども、若者(中・高生)を育てられるような空間にしてほしいですね。(39歳・女性)
- ▼新しいモノ、未知なるモノに取り組むことは、勇気と決断を要すると思います。元来、山口の人々は、やや進取の気性が足りないような気がしていましたが、ここに
- 来て拍手という感じです。でも、最先端のモノ、とんがったモノだけでなく、素朴なモノ、ダサイかもしれないモノ、そんないろいろなモノ、出来事が、交流していくプラザとして育て、いえ、市民が育てていきたいものです。(49歳・女性)
- ▼21世紀を担う次世代のため、少々の反対はあっても決断すべきと思う。(55歳・男性)
- ▼文化交流プラザは文化意識向上のためにもぜひ必要だと思えます。山口市民は堅すぎるのでもう少し文化に親しめば良いと思う。(年齢・性別無記入)
- ▼10年先、20年先の山口市(県都)にふさわしいセンスの良い文化施設がよい。(年齢無記入・男性)
- ▼情報化、芸術の施設として有効に利用できるよう期待する。(40歳・男性)
- ▼インターネット(ちいさなプラザ)はとても良い。こういう場所を求めています。(16歳・男性)



# プラザのココが知りたい

## 疑問におこたえします！

### プラザを作る意味は？

▼こうしたプロジェクトをみると、市内転々としていて、いかにもその場のぎとぎという感じがしてたまらない。都市全体を、山口という街を住みやすいまちに変えようという気持ちは分かるのだが、今イチつながっていないように思える。近未来的に全体を通して何かねらいがあるのなら市民に伝えてほしい。(性別・年齢無記入)

高度情報化時代を迎え、鮮度の高い「文化」「情報」をいかに多く集め、発信できるかということが都市の盛衰を左右するといわれています。またこれから、まちが活力に満ち、元気になるためのキーワードは「交流」だということもいわれています。

こうしたことから、山口市では、これからの都市運営上のテーマは「文化」「情報」「交流」だと考え、平成元年から、文化交流プラザを

はじめとしたやまぐち情報文化都市づくりを進めてきました。つまりそれは「文化」「情報」が集まる場所に人や企業が集まり、それが交流することにより新たな「文化」「情報」が生み出され、結果として文化都市として発展し果ると考えているからです。

やまぐち情報文化都市づくりを進める中で、核施設となる文化交流プラザは、「文化」「情報」を大きく育て「交流」を進めることができる、まちの大きな活力を生み出すことのできる場であると考えます。つまり文化交流プラザは、単なる施設ではなく、長い目で見たまちづくりの提案なのです。

### 財政は大丈夫か？

▼計画は大変すばらしいと思うが、いずれにしても、今の市の財政状況では今後の維持費ランニングコストの負担に耐えられないのではないかと。もっと先やるべきことがあるのではない

かと思う。(50歳・男性)

プラザ建設費用約70億円については、その90パーセント(約63億円)を、地域総合整備事業債(市の借金)でまかなうこととしていきますので、一般財源からの支出は約7億円になります。しかも、その借入返済額の約半分については普通交付税(国からの援助)が交付されますので、財政運営上有利なものとなっています。

情報文化都市づくりは、将来の山口市の姿を描く上でぜひ必要な政策と位置づけています。そのため、財政運営の効率化を目指して策定した「財政運営健全化計画」においても、この事業への投資を組み込んでいきます。また、設計者の磯崎新氏によれば、文化施設の理想的な管理運営費用は建設費の約10パーセント程度だといわれています。これは、特に施設のソフト運営について、独自の劇団や楽団等を所有し、活動することが前提になっています。しかし、文化交流プラザのソフト運営計画では、より財政負担の少ない、異なった運営形態を想定しており、管理運営費用については、最小限の投資で最大の効果があがるよう、引き続き検討を行い、適切な財政運

営を行っていくことにしています。

市の財政を取り巻く状況は厳しくなっていますが、今後とも財源の効率的・重点的な配分、適切な事業選択を行い、財政運営に支障のないように進めていくこととしています。

### 図書館はどうなる？

▼図書館は市民のためになくってはならないもの。早くつくって欲しい。(45歳・男性)

市立図書館は、文化交流プラザと並んで、やまぐち情報文化都市づくりの中の大きな機能の一つと位置づけられています。そのため、文化交流プラザと併設し、特に教育学習・調査研究の面で、お互いの機能を補完する役目を持っています。(右上図参照)市立図書館については、市民の皆さんから早期建設の声が寄せられているところですが、文化交流プラザを先に整備し、その後で段階的に整備していくことにしています。

建設にあたっては、今後とも市民の皆さんの意見・要望等を取り入れながら、市民にとって親しみやすい、利用しやすい図書館を整備することにしています。



# 来年1月からペットボトル、古紙の分別収集が始まります

— 8月と9月に各地区で説明会を開催 —

## 役割分担で容器包装ごみをリサイクル

増え続けるごみを減らし、資源として再利用することで、地球に負荷の少ない循環型の社会を作っていくことが、国民的課題となっています。

市では、平成9年2月から「容器包装リサイクル法」に基づいて、空き缶、空きビンの分別収集を開始し、市民の皆様のご協力によりごみの減量化とリサイクルが進んでいます。

この容器包装リサイクル法は、家庭から出るごみの容積の約6割を占める容器包装廃棄物（商品を



## ルールを守ってきちんと分別を

入れてある容器や商品を包んでい（る包装材）の減量化と再利用化を図ることを目的にしており、消費者はきちんと分別して排出する、市町村は排出されたごみを収集してまとめる、事業者は分別されたごみを再商品化するというふうにより、3者がそれぞれ役割分担してリサイクルを進めることとしています。

空き缶、空きビンに続き、来年1月からペットボトル、段ボール、新聞、雑誌の分別収集が開始されると、各家庭で分別するごみの種類がさらに多くなり、より複雑になります。しかし、リサイクルがうまく機能するためには、ルールに従ってきちんと分別されていることがとても重要です。

ペットボトル、段ボール、新聞、雑誌は、いずれも資源としてとても有効なものです。これらをできるだけ燃やさないようにするため

にも皆様のご協力をお願いします。市では、古紙、ペットボトルの分別収集にあたり、各地区での説

明会を次の日程で開催します。市民の皆様のご参加をお願いします。

### 古紙・ペットボトル分別収集説明会

地区	昼 (14:00~15:00)	夜 (19:00~20:00)
大 殿	8 / 26	8 / 23 8 / 24
白 石	8 / 27	8 / 24 8 / 30
湯 田	8 / 18	8 / 19 8 / 20
仁 保	8 / 24	8 / 25 8 / 27
小 鯖	8 / 27	8 / 31 9 / 2
大 内	9 / 2	8 / 31 9 / 1
宮 野	9 / 3	9 / 1 9 / 2
吉 敷	9 / 7	9 / 3 9 / 6
平 川	9 / 9	9 / 7 9 / 8
大 歳	9 / 13	9 / 9 9 / 10
陶	9 / 16	9 / 13 9 / 14
鑄 銭 司	9 / 20	9 / 16 9 / 17
名 田 島	9 / 24	9 / 21 9 / 22
二 島	9 / 27	9 / 22 9 / 24
嘉 川	9 / 28	9 / 20 9 / 21
佐 山	9 / 30	9 / 28 9 / 29

- 会場は、いずれも各地区の公民館です。
- 各地区3回開催しますので、いずれかご都合の良い日時の説明会にお越しください。

## 榎野川運動公園に サッカーコート完成

平川と大歳を結ぶ石津橋のためとにある榎野川運動公園に、この度新しいサッカー専用コートが完成しました。

土、日、祝日のコート使用の申し込みは（財）山口市公営施設管理公社まで。（☎28-7899）







## 選ばれています山口市

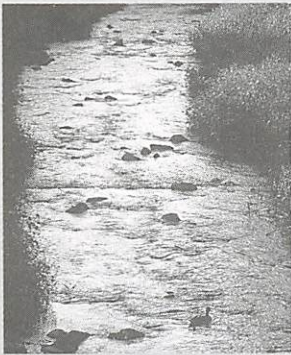
### 「日本の道百選」

パークロード  
S62/8



### 「水の郷百選」

山口市  
H8/2



### 「日本の音風景百選」

SLやまぐち  
号の「ボオー  
ッ」という音

H8/6



### 「都市景観百選」

パークロード及  
びその周辺

H10/9



### 「公共建築百選」 中原中也記念館

H10/10



水道水を将来にわたり安定確保するため、昭和54年山口・小郡地域広域水道企業団は山口市・小郡町・秋穂町・阿知須町を構成団体として設立されました。広域水道企業団は、樫野川の表流水と朝田浄水場の地下水を取水し、山口市・秋穂町・阿知須町が行う水道事業に水道用水を供給しています。山口市には、山口市水道局へ1万3184立方メートル、山口市・秋穂町水道企業団を介して281

山口・小郡地域広域水道企業団

## 水道用水の安定供給を担って

9立方メートル、合わせて約1万6000立方メートルの水道用水を毎日供給しています。この水量は家庭のお風呂浴槽で換算すると約6万4000杯になります。



樫野川上流の宮野湖付近の清流

広域水道企業団では、安全でおいしい水道用水の安定供給に取り組んでいます。水道水の源となる河川の水をきれいに保ち、水を大切に使うようご協力ください。



## 老齢福祉年金

**Q1** 平成11年8月期の老齢福祉年金は、いつから受け取れますか。  
**A1** 8月11日(水)からです。証書と届出印をお持ちになって、指定の郵便局で年金を受け取りください。受け取られた後は、8月31日(火)までに市保険年金課(市役所1階)または各出張所に必ず証書を提出してください。

**Q2** 私は老齢福祉年金を受給していますが、この度引越しをしました。老齢福祉年金の手続きが必要ですか。  
**A2** 市保険年金課または各出張所に住所変更の届が必要となります。また、場合合も届けが必要です。  
・受取郵便局の変更↓支払郵便局変更届  
・扶養義務者(受給者の面倒をみている方)の変更↓扶養義務者変更届  
・新しく公的年金または恩給を受給し始めた場合↓お問い合わせください。  
○問い合わせ 市保険年金課  
(☎ 34-2802)



# カメラさんぽ



## 市民と音楽の夕べ

自衛隊音楽隊による市民と音楽の夕べが市民会館大ホールで開催されました。会場には数多くの聴衆が訪れ、音楽隊が奏でる映画やテレビでおなじみのメロディーに耳を傾けていました。(7月17日)



## 自然に対する優しさを学ぶ水辺の教室

榎野川天神橋付近で行われた「自然に優しい水辺の教室」に大殿小5年生が参加しました。参加した生徒は、直に見る水辺の生物に驚きの声をあげていましたが、熱心に観察をしていました。(7月12日、13日)



## 山口市消防団ポンプ操法大会

消防団の技術向上のため、消防ポンプ操法大会が山口南総合センターグラウンドで開催されました。各分団から選抜された16チームは、力を合わせ小型消防ポンプ・消防用ホース・筒先等を基本に忠実に操り、速く正確に標的を落とすことを競いました。(7月11日)



## 水の事故にご用心

水難事故の多発する夏を迎えるにあたり、山口・小郡消防組合では、潜水器具を使用した水中捜索訓練を榎野川で行いました。(7月21日)

◇問い合わせ  
市課税課家屋担当

(☎ 34-2736)

●お願い  
平成11年中に、家屋の新築・増築または取り壊しがありましたら、調査に伺いますので、左記までご連絡下さい。

A 固定資産税は、地方税法によって、原則として、その年の1月1日現在の登記簿上の所有者に対して課税されます。ですから今回の場合、平成11年1月1日現在の登記簿上の所有者であるAさんが11年度の納税義務者になります。

Q 私は平成10年11月に家をAさんに売却し、所有権移転登記も済ませました。平成11年度の固定資産税はどうなりますか。



家屋の固定資産税について





「まちづくり達人養成塾」ってどんなものなんですか。

「まちづくり」というと、偉い人が難しい顔をして、話し合っただけで進めるとかイメージだと思っただけです。でも今回の「まちづくり達人養成塾」では、そういった昔ながらの進め方ではなく、誰もがま

ちづくりに対する自分の意見を気軽に話せて、ニコニコしながら進められるような、市民参加型まちづくりの手法をみなさんに学んでもらうことを目指しています。特にまちづくりに欠かさない、会議の橋渡し役となる人材の養成などをやってきました。

参加されたみなさんの印象は。

今回のまちづくり達人養成塾には10代から70代までの実に幅広い年代、まさに老若男女の方々に参加していただきました。そういう意味で、山口市にはまちづくりに対する関心が高い方や、問題意識を持っておられる方が多いのだと感じました。

## 藤原恵洋さん

九州芸術工科大学助教授。昨年10月から、また話・まちづくりに積極的に参加する人材を育てる「まちづくり達人養成塾」の塾長を務める。7月か「湯田温泉21世紀フォーラム」の調整役もつとめるなど、市民参加のまちづくりに全国各地で活躍中。

参加されたみなさんからは、もっと話が聞きたい、話がしたい、という気持ちがとても感じられて、まちに対する愛情だとか情熱のようなものが、率直に伝わってきました。やっっている私の方もとても楽しく進めることができました。

まちづくり達人養成塾の卒業生の中には、今、徐々に商店街の活性化や、アートふる山口などにも参加しようという動きが出てきています。そういう人たちが「まちづくり」を実践して活躍されることを大いに期待しています。

これからの「まちづくり」についてどうお考えですか。

これからのまちづくりに市民の持つ隠れたエネルギーを使わない手はないと思います。また、地方分権の時代を迎え、地方自治体の裁量で行う事務が増えてくると思います。今後、役所の力だけでは息切れしてくるのではないでしょう。これからは形だけの市民参加ではなく、市民と行政とのうまい関係を作って、市民の意見を行政の中にも生かしていくことが重要なんだと思います。その中でも、学生のエネルギーを取り込んでいったら面白いんじゃないかと思っています。



## 韓国公州市の百濟文化祭

今年で45回目を迎える百濟文化祭が、10月に姉妹都市韓国公州市で開催されます。この祭りは、韓国3大文化祭の一つで、百濟の歴代の王を追慕し、百濟時代の都として繁栄を極めた古き文化を記念するいろいろなイベントが繰り広げられます。

1500年前にさかのぼって再現された百濟人の服飾行列や百濟王の行列など、公州市全体が「百濟の都」となり、韓国全土から多くの観光客が訪れます。



市では、平成7年に市民訪問団が時代行列に参加して、祭りを通じて市民交流を深めました。



平成11年全国消費実態調査  
にご協力ください

9月～11月までの3か月間、全国消費実態調査が実施されます。

この調査は、5年ごとに実施されており、国民生活の現状とその推移を家計の面から明らかにすることを目的として、全国の世帯から統計法に基づいて、抽出された世帯を対象に行われます。

調査の内容は、家計簿等を記入していただくことです。調査結果は、国および地方公共団体の行う社会・経済等の行政の企画・立案に欠くことのできない貴重な統計資料となります。

8月中旬頃に県知事が任命した調査員が皆さんのお宅に伺いましたら、どうぞご協力くださるようお願いいたします。

なお、調査された事柄を統計資料を作成する目的以外に使用することは、法律で固く禁じられていますのでご安心ください。

◇問い合わせ 市企画調整課 (☎34-2748)

—10万個の紅ちょうちんが山口を染める—

山口七夕ちょうちんまつり

8月6日(金) 7日(土)



両日共通イベント

紅ちょうちんの点灯  
(中心商店街、湯田温泉商店街)

19:30～21:30

サマーマスクちょうちんツリー'99 (JR山口駅ロータリー広場)

19:00～20:30

一出店—

(パークロード)

レストコーナー

17:30～20:30

カーコーナー

17:30～20:30

6日(金)

すだれちょうちんの点灯 (市役所東側)

19:00～21:30

かざり山笠 (市役所前庭) 19:30～20:30

「第10代ミス山口」認証式 (亀山公園ふれあい広場「ステージ」) 19:00～19:30

YAB舞楽祭 (亀山公園ふれあい広場「ステージ」) 19:30～

ドゥーリー・パーカッション・ラボ (アフリカの打楽器) の演奏

19:45～ 佐野真紀子、特別出演 津田隆 (尺八) による演奏

20:00～ プカソッコ (ペルーの民族音楽) の演奏

20:50～21:30 バンバンバザール (ニューオリンズのジャイブ) の演奏

7日(土)

ちょうちん山笠 (パークロード)

20:00～21:00

大内ちょうちんみこし (パークロード、新町、駅通り) 20:00～21:00

子どもみこしパレード (駅通り、パークロードの巡行)

19:00～20:00

KRYお祭り広場 (亀山公園ふれあい広場「ステージ」)

19:10～20:10

キャラクターショー「それゆけ!アンパンマン」



20:20～21:00

アコースティックライブinやまぐち

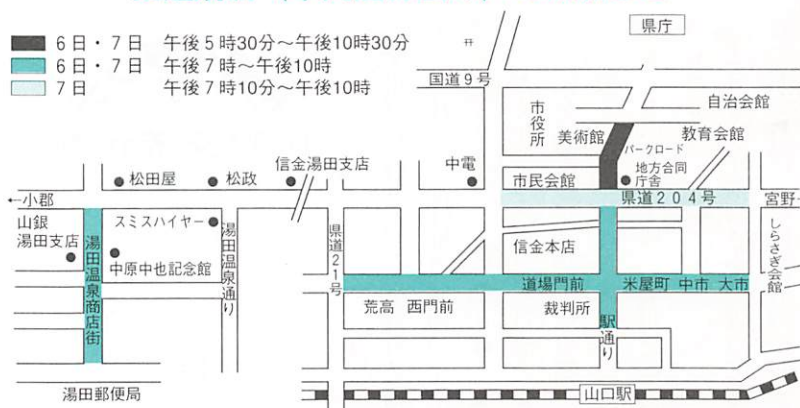
第1部 集まれストリートミュージシャン

第2部 永井龍雲アコースティックLIVE

●問い合わせ 山口市ふるさとまつり実行委員会 (☎32-3456)

交通規制 (車両通行止め) のお知らせ

- 6日・7日 午後5時30分～午後10時30分
- 6日・7日 午後7時～午後10時
- 7日 午後7時10分～午後10時





## 山口市アーチェリー協会 アーチェリー教室受講者募集

◇期間 8月17日(火)～9月17日(金)までの毎週火・金曜日(全10回)

◇時間 午後6時30分～8時30分

◇場所 県弓道場(県維新百年記念公園内)

◇対象 アーチェリーに関心がある人 30人

◇受講料 3000円

◇申し込み 8月16日(月)までに大橋さん(☎・FAX 24-6756)へ

※弓具のない人には、貸し出しします。

## 山口ひびき少年塾 塾生募集

◇主な内容

・第1回「8月26日(木)」

開講式、重源の里(徳地町)での自然観察や歴史の学習と体験工房での作業

・第2回「9月11日(土)」

鑄銭司郷土館や防府市国分寺等で歴史と文化財の学習

・第3回「10月9日(土)」

山口ふれあい館で陶芸に親しむ

・第4回「11月27日(土)」  
樫野川や矢原河川公園で自然と

環境の観察

・第5回「12月11日(土)」

社会福祉・ボランティアの体験学習

・第6回「1月22日(土)」

中国電力電遊館で国際交流についての理解と学習

◇対象 小学4年生～中学2年生

までの男女 40人(先着順)

◇申し込み 問い合わせ はがき(住所、氏名、電話番号を明記)

で山口ひびき少年塾係(山口市社会を明るくする推進協議会内

〒753-0822周布町3-7 ☎20-0865)へ

## 山口市民俳句大会作品募集

◇対象 市内在住・在勤・在学者

◇応募句 1人1句(雑詠)

\*各公民館備え付けの実施要項末尾の投句用紙を使用してください。

◇投句料 無料

◇投句先 8月20日(金・必着)

までに時繁美恵さん(〒753-0212下小鯖656-9 ☎27-1652)へ

◇大会日時 9月25日(土) 午後

零時30分から

◇場所 市民会館小ホール

◇問い合わせ 山口市俳句協会(☎22-3688)



市民の生活に少しでも役立つよう地域に密着した活動をしている「山口市消費生活研究会」。研究会の活動内容などについて会長の吉富崇子さんにお話をうかがいました。

―会が発足したきっかけは。

昭和59年1月にそれまでの山口市消費生活モニターのOB会を「山口市消費生活研究会」として再スタートさせました。

―どんな活動をされているのですか。

例えば、野菜には産地名の表示が義務づけられています。会員が実際にスーパーに行って、どれくらいの割合で守られているのかを調査したり、乳製品を使った料理教室(写真)などを行っています。

また、機関誌「消費者だより」を7、11、3月の年3回発行しています。

―これからはどのような活動をしていきたいですか。

ダイオキシン発生



## 山口市消費生活研究会

昭和59年1月発足。現在、年齢20～80代の会員が37名。定例会は月2回(第1、3水曜)。市民のみなさんがよりよい消費生活をするため、地域に密着したさまざまな活動をおられます。

のもとになる塩化ビニールの調査など、これからも市民のみなさんの生活に役立つような活動をしていきたいと思っています。研究会という難しいと思われるかもしれませんが、『まず私たちの出来ることから』をスローガンに活動していますので、年齢・性別問わずどなたでも入会できます。私たちの調査・研究に幅が広がると思っていますので、男性の方も入会してほしいですね。



## 夏野菜の スパゲティ

もすぐれています。中でも、オクラは、夏に1番のスタミナ野菜です。小さく刻んで箸で混ぜると納豆のようにネバネバするので、青納豆とも呼ばれています。この粘りのもとになる成分が、夏バテ防止に役立ちます。

子どもたちの苦手な野菜も、スパゲティの中に入れるとよく食べられています。夏が旬の野菜をしっかりと食べて、暑い夏を元気に過ごしましょう。

山口大学教育学部

附属山口小学校 栄養士

椎木 和子



もりもり食べて、夏バテなんかしないぞ。  
(附属山口小学校4年2組のみなさん)



## 夏野菜のスパゲティ

エネルギー198kcal たんぱく質8.5g

(1人分)

材料(4人分)

スパゲティ	120 g
ベーコン	40 g
あさりむき身	60 g
なす	80 g
トマト	120 g
オクラ	20 g
にんにく	4 g
白ワイン	大さじ 1/2
サラダ油	12 g
塩	適量
こしょう	適量

作り方

- ①ベーコンは千切り、にんにくはみじん切りにする。
- ②なすは小口切りにし、水にさらしておく。
- ③トマトの皮を湯むきし、ざく切りにする。
- ④オクラは、さっと塩ゆでして、千切りにする。
- ⑤フライパンにサラダ油を入れ熱し、ベーコン、あさりむき身、にんにく、トマト、なすをいれよく炒め、白ワインと塩、こしょうで味付けする。
- ⑥たっぷりのお湯に塩を入れ、スパゲティをゆで、ざるにあげる。
- ⑦⑤にゆでたスパゲティとオクラを加えて混ぜる。



7月20日から27日にかけて、山口に夏の到来を告げる山口祇園祭が開催されました。初日の20日には3基の御神輿が中心商店街に繰り出し、「ワッショイ、ワッショイ」と威勢の良い掛け声を響かせていました。また、真車山の巡行も復活しました。

### 表紙写真説明

▽子どもには宿題大変夏休み。私にはお弁当づくりが夏休み(T)  
▽夏真っ盛り。祭りにぎわう毎日(プ)▽どこか旅行に行きたいけれど、先立つものがない(ふ)  
▽梅雨も終わり、夏本番、夏バテに注意(Y)▽早くも夏バテか、仕事のしすぎか、それともオヤジになってしまっただけか、肩こりがひどい今日この頃(ふ)▽はりきって、ツイワモトな〜りとと 歌う次男(ノ)

### 編集後記